

高校入試に係る手続きのデジタル化について

1 高校入試に係る手続きのデジタル化に関する調査研究

教員が多忙であると言われる昨今、教員の業務の中でも、相対的に負担感が高いものが、文部科学省の令和4年度教員勤務実態調査で明らかになりました。このなかで、事務作業や成績処理などについては、教員の負担感が相対的に高いという結果がでており、デジタルなどの手段を用いて、教員の行っている作業の負担軽減を進めていく必要があります。

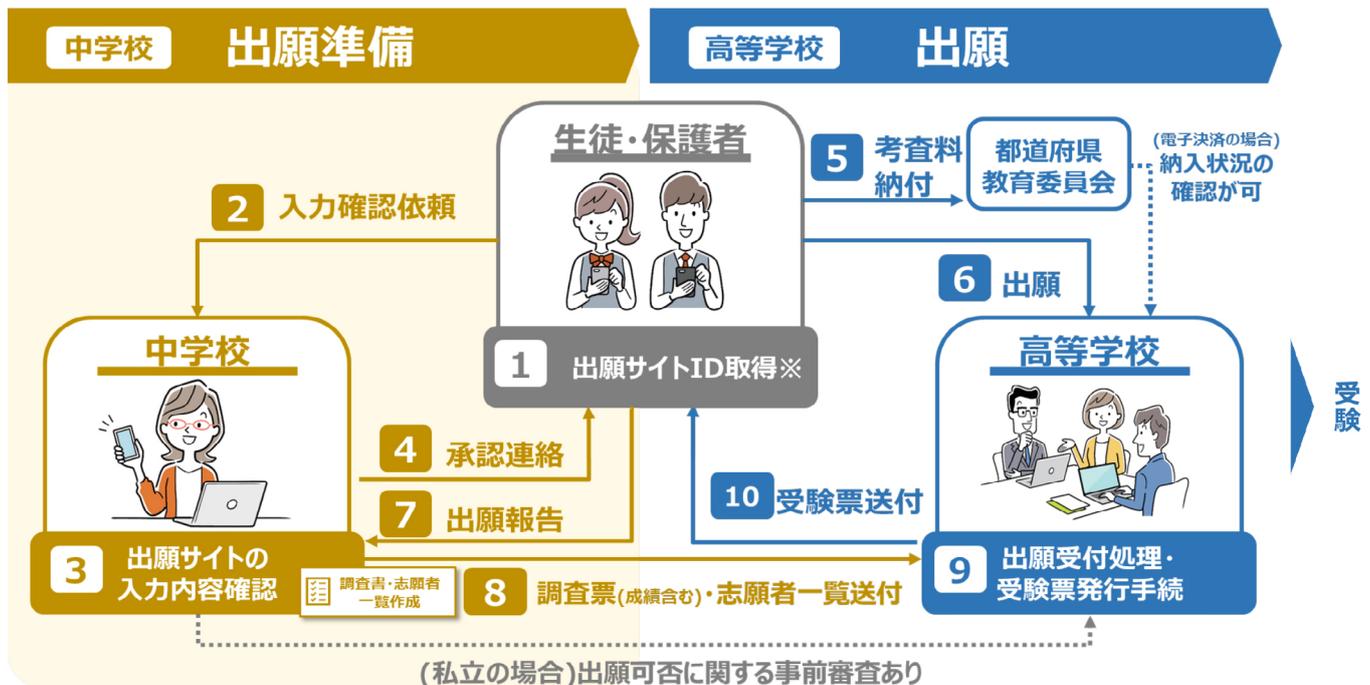
高校入試に係る事務手続きにおいて、必要書類が紙媒体で作成されることによる書き直しなどの重複作業や、紙媒体の出願書類の手渡し・郵送による提出等が、

教員に加え、生徒・保護者にも負担が生じているという課題に着目し、デジタル庁では、総務省・文部科学省・経済産業省と協議の上、令和5年度に高校入試に係る手続きのデジタル化による教員・生徒・保護者の負担の抜本的な軽減を目指した調査研究を実施しました。

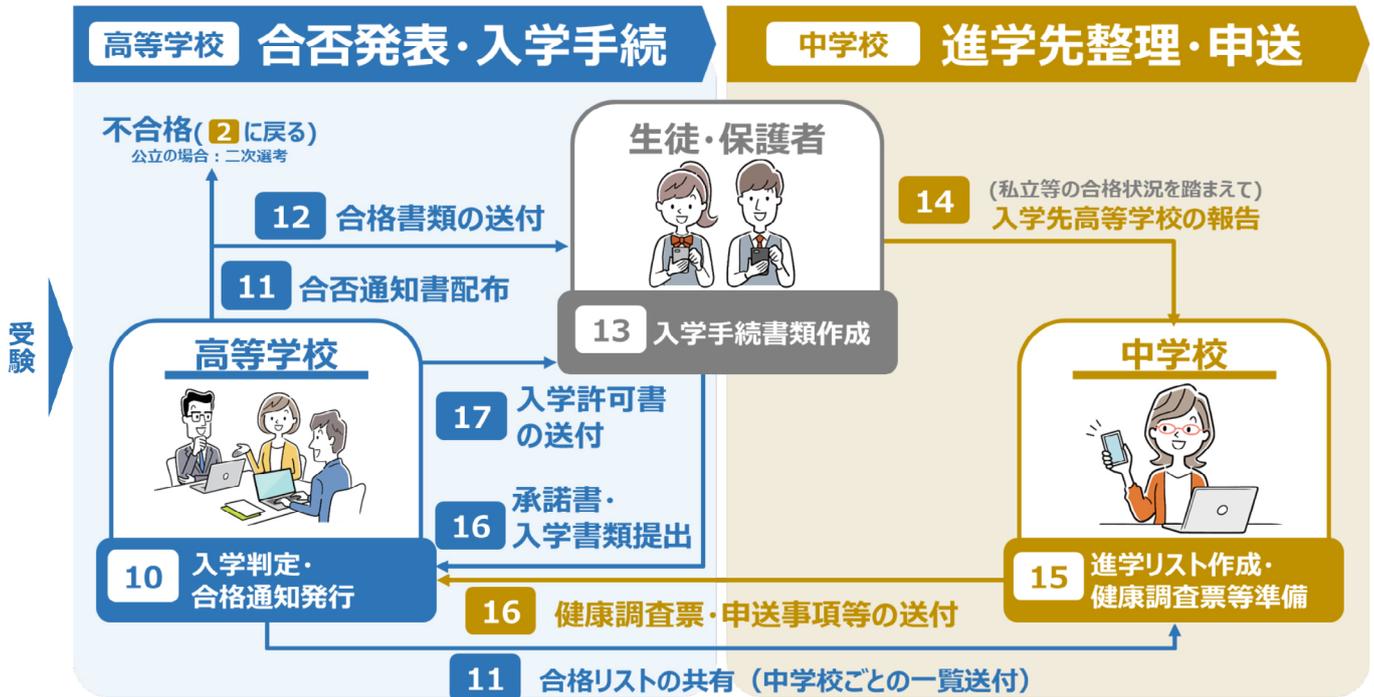
調査研究においては、高校入試における全てのプロセスを、生徒の出願準備から受験まで<期間①>及び受験後から生徒の進学先決定まで<期間②>の期間に分けて、デジタルで代替可能な机上検証しました。その結果、2つの期間の全プロセスにおいて、紙媒体の印刷を行わずにデータでのやり取りによって完結できる可能性が高いことが示されました。

【参考】[「高等学校入学者選抜のデジタル化に関する調査研究」成果報告：デジタル庁 \(digital.go.jp\)](https://digital.go.jp/)

<期間①>生徒の出願準備から受験まで



<期間②>受験後から生徒の進学先決定まで



2 高校入試に係る手続きのデジタル化のポイント

高校入試に係る手続きのデジタル化により、業務負担が軽減されるプロセスの主なポイントは以下を想定しています。

①出願書類のシステム上での学校間送付

中学校と高校との間の出願書類のやり取りを、紙媒体ではなくデータで行うことで、教員の複数回の入力作業・印刷・出願書類を高校に直接提出するための移動時間を削減したり、紙媒体の紛失といったリスクを軽減したりできないか（データ改ざん等のリスクは別途対策が必要）。

②出願プロセスの見える化

出願プロセス（出願状況・出願書類の送付状況等）を教員・生徒・保護者等の関係者がシステム上で確認することなどにより、提出漏れ等を防止できないか。

③キャッシュレス考査料納付

考査料納付をキャッシュレス化することで、時間や場所の制約を受けない考査料納付を実現し、教員や保護者の負担を軽減できないか。

3 検証への御協力をお願い

今後は、デジタル化によりどれだけ教員・生徒・保護者の負担を軽減できるか、ミスの削減につながるかといった実務的な検証が必要だと考えています。

デジタル庁では、令和7年度以降に協力いただける教育委員会・学校とともに、高校入試に係る手続きのデジタル化の検証を予定しています。

御協力いただける、または御興味のある教育委員会におかれては、ぜひデジタル庁まで御連絡ください。

◇◆デジタル庁教育班連絡先◇◆

kyouiku@digital.go.jp